✝

2023年

1月第1・2週の主日礼拝説教要約

・1月1日：マタイ福音書　2：1－12．

『　メシアはどこに　』

・1月8日：マルコ福音書　1：1－11．

『　地の声と天の声　』

衣笠病院教会　牧師　宮原晃一郎

≪　メシアはどこに　≫

イエス・キリストのご降誕を記すマタイとルカの福音書を読むと、両者の記述におけるイエスと両親の、過密な強行スケジュールに読者は悩まされます。本籍地のベツレヘムにもかかわらず、宿屋以外に、これといった宿泊先もなさそうで、その近辺には、親戚のザカリア（とエリザベツ）の家くらいしかありませんでした。無事にナザレの自宅に辿り着くまでの彼らの長期間の居場所の確保には、神による御加護はどうしても不可欠だったはずです。

そんな慌ただしいイエスと両親に出会う（拝礼する）ために遥々、東方から博士たちがやって来ます。「お生まれになったユダヤ人の王」を訪ねて。彼らを導く「その星」が空に出現した時に「お生まれになった」のであるならば、イエスと両親のベツレヘムでの滞在期間はけっして短期間では済まなかったはずなのです。

博士たちが「その星」に導かれて最初に辿り着いたのは、ベツレヘムの数キロ手前のエルサレムでした。ヘロデ大王の宮殿のある都は、博士たちにとってユダヤの王の生誕に相応しい場所でした。けれども来訪の博士たち以外に「王の生誕」の情報を知る者は誰もおらず、街中は大騒ぎとなります。騒ぎを聞いた王は、祭司長や律法学者を集めて対策会議を開き、真相究明に乗り出し、保管文書を調査して預言者ミカの文書に記された該当箇所から、生誕地は「ベツレヘム」であることを割り出します。

待合室にいた博士たちは、ヘロデ大王の応接間に通されて事情聴取を受けます。「その星は、いつ出現したのか」と。もちろんヘロデ王は間接的に噂の「ユダヤの王」の生誕日を突き止めたかったのでした。

権力者なら直ちに官憲を差し向けるのが筋です。ただ、慎重に配慮して行動しないと、どんなしっぺ返しを食らうことになってしまうのか…。ヘロデは狡猾に振る舞う選択をします、「行ってその子のことを詳しく調べて、見つかったら報せてくれ。自分も同行して拝むから」と、心にもないことを博士らに告げて送り出しました。

夜が更けて、一時はエルサレム上空で見失ったあの星が、再び彼らの頭上に輝き始めます。彼らはもうじき長旅を終えることになるでしょう。その星は生誕の王の居場所の真上で輝いています。そこは一軒家だったのかもしれません。「家に入ってみると、幼子が母マリアと共におられた」の

でした。博士たちの胸にも大きな歓びが生まれたのは言うまでもありません。持ち寄った贈り物を、彼らは母子の前に並べました。

宿屋には幸いにして空き部屋も増え、彼らの宿泊する部屋もあったようです。一晩、彼らはそこで長旅の疲れを癒します。すると、その夜の夢でお告げをうけます、「エルサレムの王のところに戻るな」と。彼らがすでに、報告を後回しにしていたことも幸いします。マリアに抱かれた「王」の威厳はすでにヘロデのそれを大きく上回っていたようです。

その星の導きを主導した神は異国の博士（祭司）たちの安全をも保障していたのでした。

≪　地の声と天の声　≫

マルコ福音書は、洗礼者ヨハネが、ガリラヤの領主のヘロデ（アンティパス）の牢に入れられて、最後に処刑されるまでの情報を詳しく記しています。イエスの降誕物語には一切触れないこの福音書は、「荒れ野で呼ばわる者の声」の主（ぬし）である洗礼者ヨハネの、晩年の活動から始まります。この福音書の１章４節には以下の文言が記されています。

> 洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために、悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。そこで、ユダヤの全地方とエルサレムの全住民は、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

洗礼者ヨハネは、当時かなりの有名人でした。その彼が領主の下に連行されたのは、領主の結婚における律法違反を声高に批判したからでした。

１６世紀の英国王が、法に反する結婚を強行したときに、これを厳しく批判し、反逆罪で処刑されたのは、「ユートピア」の著者、人文学者で政治家のトーマス・モア(1478-1535)でした。世の支配者の罪を、堂々と非難できる人こそ時代を超えたの「声」の主（ぬし）であり民衆の絶大な支持を受けることになります。

さて、聖書に戻ると、洗礼者ヨハネの許に「ユダヤの全地方とエルサレムの全住民」が彼の支持者として集って来ていたことは、驚くべき事実でした。さらに、そんな彼の許に最後に現れたのが、ガリラヤのナザレから

来た大工ヨセフの子のイエス、ユダヤ人の中では、まだ無名の「預言者」として。その人の公生涯は多くのユダヤの民衆と同じで、ヨハネの洗礼を授かることから始まりました。

その時、天から大きな声が響き渡ります。

あなたは私の愛する子。私の心に適う者（私はあなたを喜ぶ）。

洗礼者自身、この時初めて天の声を聞くことになります。イエスに洗礼が授けられることにおいて何か特別のことが生じたのでしょうか？

神によって備えられたイエスの道程が、洗礼者ヨハネのそれをはるかに凌いで余りあるものとなっていくことは、まだ誰にも知らされてはいませんでした。